



TITLE:

京都支部・京星會だより(六月):支部欄

AUTHOR(S):

CITATION:

京都支部・京星會だより(六月):支部欄. 天界 1935, 15(172): 399-399

ISSUE DATE:

1935-07-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167064>

RIGHT:

京都支部・京星會だより (六月)

梅雨の六月・陰鬱な雨が毎日続く、たまに雨が止んだと思つても厚い雲が空を覆つて星さへ見えない。観測はほとんど駄目、同好者は空を睨んで溜息をつく。京星會が京都支部として協會と連携して第壹月、天候惡の爲観測方面は不活動、その變り幹事に時間の餘有があつて會の組織や内容に就て種々研究協議され會の事務がうんと渉る。會員の増加、會の膨張に従つて事業の範圍も擴がり、幹事の手廻らぬ處も出來て創立以來の總務部、編輯部、事業部、観測部の組織に更に圖書部、運動部の二部が創設された。兩部は今迄事業部の一分課として行なはれてゐた處が分離獨立する事になつたもので、圖書部は會員所有の天文圖書の調査紹介、會員間の圖書の交換借覽の幹施、會員への圖書の貸出回覽、新刊圖書の紹介等天文圖書に關し會員の便宜を計り、運動部はスキ、水泳、ハイキング等スポーツを通じての會員間の親睦に盡すものである、兩部にそれぞれ幹事が定められた。

天文臺、協會の御厚意により七月から會員の親睦、研究を計るための懇談會、例會が毎月の協會の例會當日開會される前に開く事になつた。京都市の會員同好者諸氏の御出席を希望します。五日から編輯部が活動を始め月末には「京星」七月號が出來上る筈である。梅雨の上るのが待ち遠ほしい。

た よ り

昭和十年六月二十四日

水 野 千 里

山 本 一 清 先 生

謹啓 (中略) 高野山カラ下記ノ通り申シテ來マシタ。

高野山大學教授・釋迦文院住職 森田龍僊師ハ大學デ宿曜經ノ講義ヲ担任シテ居ラレ、
「宿曜經の研究」ト題スル尠大ノ著書アリ印度・支那ノ曆學ト星ニ關シテハ獨自ノ深イ研究ヲ遂ゲラレテ居マス由、近々多年ノ研究ノ結果ヲ發表シテ世ニ問ハレルサウデアリマス。